



宗祖 法然上人 800回大遠忌

通信

法然上人と今、すべてのいのち



平成23年4月25日(月)～5月1日(日)

総本山 永観堂禅林寺

法然上人800回大遠忌記念事業「授戒会」

八百年の時空を超えて、法然さまの教えが脈々と伝わる！

平成二十一年五月二日(土)から六日(水)まで、「授戒会」が総本山永観堂禅林寺で行われました。これは法然上人800回大遠忌を記念して開かれたもので、禅林寺御影堂で五日間の厳格な儀式を経て、小木曾善龍法主の伝戒師のもと、三百六十九名の受者が戒を授かり、新たな信仰の道に入られました。

【第一日】

開 闢

戒をおさめて、
今日から新しい生活
に入りましょう。

祖 師 礼

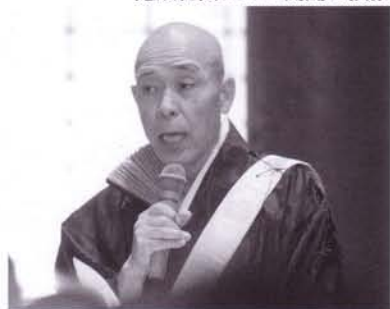
戒念一味は
わが宗派の信仰の要。

雲版が打ち鳴らされ、午前八時三十分
に受者は釈迦堂前の廊下を行道して御影
堂へ向かう。殿鐘が撞かれ、大衆が大殿

に入堂。伝戒師を務められる浄土宗西山
禅林寺派管長総本山永観堂禅林寺法主小
木曾善龍親下を宗務総長鬼頭誠英師が引
接して入堂、着座。いよいよ授戒会が始
まる。香燭・三宝礼・四奉請と節つきで
読まれ、諸佛をお迎えし心経・洒水で堂
内が清められ小木曾善龍親下により開闢
の疏が読まれる。

開経偈につづき、菩薩戒経を読み、祖
師礼が始まる。

鬼頭総長による開闢の挨拶



四弘誓願・
三称三礼・
下化十念の
あと伝戒師
小木曾善龍
親下は退堂
され、宗務
総長鬼頭誠
英師が開闢

の挨拶をされる。

「口今、伝戒師小木曾善龍親下の開闢の
疏の奉読により、五日間の授戒会を開筵
します。司教輔である中西玄禮上人と三

輪真明上人のお二人が説戒師として、全

ての宗派に共通の「七佛通戒偈」諸悪莫作

・諸善奉行・自淨其意・是諸佛教そして、

次の三聚淨戒①すべての悪を作さず、②

善を実践し、③他者のためになることを

実現する。と十重禁戒を授けていただき

ます。①生命を尊重する事。②他の動物

の生存領域を奪わない事。③身体を大事

にし、自然の生態を奪わない事。④真実

を語る事。⑤心を味(くら)まさず明晰

にして前進する事。⑥他人の欠点を咎め

ずに完全さを見る事。⑦人間の優越感を

捨てて自然との同等性をさとする事。⑧他

者との相互依存を悟り、他者に対して寛

大に与える事。⑨怒りを捨て自然との調

和を実現する事。⑩この宇宙という宝を

粗末にせず、ものに対する親密さを体験

する事。娑婆ではこの三聚淨戒と十重禁

戒を守り、止悪修善を実現する事は難し

いのです。そこで、十二門戒儀の儀式作

法で示してまいります。戒体はお念佛に

よって発得するのです。戒を保ってお念
佛に励むことが実は戒念一味というわが
派の信仰の要です。お念佛の功德を確り
と我がものにして頂き、無障礙に最終日
の正授戒をお迎えくださいます事を念じ
て、挨拶とします。」

説 戒

法然上人は始は戒を
ときて人に授け、
後には教えを弘めて
ほとけになさしめ給

説戒は授戒会中に何回もおこなわれま
したが、その内容をここで紹介するのは
紙面の都合上むづかしいので、前半を務
められた司教輔の中西玄禮上人に、戒に
ついてまとめていただきました。

『戒とは「してはいけない」という消極



的な意味だけでなく、「人のために尽くす」という積極的な実践を勧めるものです。キーワードは「戒香薫習」。戒の実践を誓い、報恩と懺悔の心で多くの人の幸せのために生きんとする人は、その徳の香が周囲の人の心に染みこんでいく影響作用のことをいいます。

戒を受けることにより、感恩と感動と感謝の心を持つ「三感王」になることが「生きて身を蓮の上に宿す」念佛者の人生なのです。」

後半部分を担当された司教輔の三輪真明上人は次のようなお話をなさいました。



力強く熱烈に説かれる三輪真明師

宗祖法然上人は久安三年（一一四七）比叡山で叡空に師事し、出家・受戒。叡空はその師良忍から、良忍は慈覺大師から伝わった円頓戒は法然上人から西山国師に、その弟子浄音上人、観智上人……現在にまで脈々と伝えられています。

その戒を法然上人は、戒師として、天皇や貴族に授けるといふ儀式的な面だけでなく説戒という法話をして、新しい信者を増やし専修念佛を広めました。その戒とは、梵網經の十重禁戒では次のよう

にあげています。

- ① 不殺生戒―命を奪う―命をよく育てんとする教え
- ② 不偷盜戒―ごまかし―天地にせびる、自然に求める
- ③ 不邪淫戒―男女の淫らな行い―人の怨恨を起こす
- ④ 不妄語戒―不信におちいる、孤独になる
- ⑤ 不飲酒戒―理性を狂わす、乱心を起こす―過ちを起こす手引となる
- ⑥ 不謗四衆過戒―他を謗る、争う―自己中心主義、自分を失う
- ⑦ 不自讃毀他戒（口業）―利己主義、貪欲、人を悪く言う―すべてを失う
- ⑧ 不慳惜加毀戒―真理に遠のく、ひとりよがり―頼まれたことは慈悲をもって応える
- ⑨ 不瞋恚戒―立腹する、許さず―不安穩になる、恐怖する
- ⑩ 不誑三宝戒―宗教を誤る、迷う愚鈍に生まれる―よく尋ねる（意業）。これらが大乘の戒律に定める十種の重要な禁戒です。

法然上人は「戒、性無作なる仮色也」とも申され「事のついでに念佛のことを語り申さる」と言われています。また、西山国師は「戒は慈悲也。弥陀独りこの徳を有す。戒は之れ念佛也。弥陀他力の本願を戒と云う。持戒清浄の人と雖も戒に留まって往生を願わざるは破戒の人也。破戒、無戒と雖も極楽を願ひ念佛を修する者は持戒清浄の人也。念佛を修し往生を願ふ者は自然に守らるる也。」とおっしゃっています。このように、戒について懇切丁寧な説明がなされました。

不安と緊張に包まれて行道



懺悔式が行われる。大殿より受者引きが引鑿で受者を引接し念佛行道して釈迦堂前まで導く。受者は丁子を口にくわえ、

懺悔式

かえりみて己を知るべし。

贈授戒の回向と説戒が繰り返され「日中会」となる。伝戒師入堂のあと、開經偈、肆誓偈、一尊礼、啓白文、白木念佛、特別回向、回願、四弘誓願、三称三礼、下化十念で午前の部を終わる。昼食後、午後の部が始まり、調読を終えたあと、触香、洒水、塗香をして、大殿に入堂して、五悔を読む。維那が句頭を読むと全員がそれに続いて唱和する。過去の自己を内省し、自ら犯した罪を自覚し、これを悔いあらためる決意をうながす。贈授戒の回向と説戒とがくりかえされた後、伝戒師が入堂し、第一回目のご親教が始まる。ご親教が終わると、全員立ち上がり念佛行道。「菩薩行道戒香薫習」で行道をおえて着座。日没会を修して一日を終わる。

【第二日】 開關以外、第一日に同じ。

【第三日】

鬼頭宗務総長から白蓮をいただき、道場へ入堂。行道しながら説戒師の前で「障罪無量」と唱えて説相箱に白蓮を入れる。同時に説戒師も共に唱えて鑿を打つ。

殿鐘が撞かれ、受者が触香、洒水、塗香を受け再び大殿に入堂。後門で迎え鉦が鳴らされ伝戒師を迎える。

鬼頭宗務総長が伝戒師の前で「広懺悔」を拝読。垂示、十念して伝戒師が退堂される。

【第四日】

剃度式

乱れた心を、
とりのぞき、
心身ともに清らかに。



香偈、三宝礼、四奉請が節つきで読まれ、心経、洒水で堂内が清められ、「剃度の疏」が読み上げられる。伝戒師が受者に向き、ご親教を述べられる。「略懺悔」「三帰三竟」「流転三界の文」を一句一句受者が復唱し、十念が授けられる。再び、「流転三界中」の文を唱えながら巡道する。説戒師から洒水を受け、伝戒師からお剃刀を受け、宗務総長から袈裟を授与される。三衣・三経・釈文が授与され、巡道が終了する。

ご法主は一人ひとりに剃刀を当てられる



「戒品この時に於いて円満せん！」

【第五日】

正授戒

新しい人生を
ひらくために
念佛の生活をしましょう。

道場が酒水、降蓮され、要文が唱えられる。祖師礼が繰り返され、「現前伝戒の大導師大僧正」で迎え鉞が鳴らされ、伝戒師が入堂。山王権現前で心経一卷があげられる。引僧師にひかれ金打一乞戒一随僧一伝戒師一請師一垂戒の順に入堂。請師・乞戒が行われる。伝戒師が着座されると、香偈・三宝礼・四奉請が節つきで唱えられ、心経・酒水で堂内が清められ、伝戒師が表白文を厳かに読み上げられる。終わると伝戒師は下向し、垂戒、金打両者が前に進み、先ず垂戒が受者に向かって読み、次に金打が読み終わって、受者代表が鉞鉈を打って、金打を誓う。

十二門戒儀が始まる。伝戒師が十二段階を踏んで、受者に戒を授けられる。

一、開導 二、三帰依 三、請師 四、懺悔 五、発心 六、問遮 七、正授戒 八、証明 九、現相 十、説相 十一、広願 十二、勸事

十二門戒儀を終えて、受者巡道して血脈が授与される。受者が登壇して、伝戒師をはじめ大衆が受者を二匝圍繞する。贈血脈譜を総長が壇上で捧持し如法に務められる。

本山挙げての記念事業への取り組み！

入浴が近づく法然上人を歩く旅

二〇〇六年十月九日、岡山誕生寺を出発して、二〇〇九年三月八日、神戸のJR六甲道駅までやってきました。第十一回を五月十七日に実施する予定でしたが、新型インフルエンザが神戸で発生したため、やむなく中止しました。したがって、九月二十七日に順延して、JR六甲道駅からJR北伊丹駅まで二十一・九キロを歩きます。

伊丹からは西国街道を通り、高槻、水無瀬と歩き、入浴して久世まで。と久世から京都市中を通り修学院まで、最終回は修学院から、比叡山に登り、延暦寺に参ります。

今後の予定は次のとおりです。

第十一回 JR六甲道駅〜JR北伊丹駅 2009年9月27日

第十二回 JR北伊丹駅〜JR高槻駅 2009年12月13日

第十三回 JR高槻駅〜JR桂川駅 2010年3月7日

第十四回 JR桂川駅〜叡山電鉄修学院駅 2010年5月16日

第十五回 叡山電鉄修学院駅〜延暦寺 2010年10月3日

伝道の輪が広がる特別法要

法然上人の教えを胸に、念佛する歓びを未来に伝えようと始まった特別法要・伝道、いわゆるお待ち受け法要は、二〇〇六年六月神戸から始まり、二〇〇九年六月現在、五十二か寺に及んでいます。さらに、今年十月に兵庫県で、来年一月に滋賀県で実施されることが予定されています。

これまでに実施された御寺院
二〇〇六年 阿彌陀寺・末廣寺・休務寺・積善寺・常楽寺・真如寺・極楽寺・法音寺・常林院・地藏院・淨心寺
二〇〇七年 米昌寺・立政寺・善光寺・寿琳寺・玉泉院・安養寺・安養寺・法榮寺・竹林寺・安阿弥寺・天性寺・沼貝寺・善来寺・善導寺・法然寺・善光寺・安井念佛寺・西寺・寶樹寺・太秦常楽寺・山ノ内念佛寺
二〇〇八年 専念寺・若王寺・西福寺・福名寺・中堂寺・正福寺・観音寺・護念寺・西福寺・西方寺・福田寺・大蔵寺・瑞泉寺・道心寺・常福寺
二〇〇九年 大覚寺・善導寺・生蓮寺・諱願寺・専淨寺
これから実施される御寺院
二〇〇九年 長寿院
十月十六日 延命寺・西光寺
十月十七日 蓮華院・西光寺
十月十八日 蓮華院・西光寺
二〇一〇年 善勝寺・西光寺
一月二十三日 大通寺
一月二十四日 大通寺

今年は愛知大会を実施

「法然上人と今、すべてのいのち」愛知大会は、今年十月五日(月)に、東別院ホールで開催されます。東別院ホールは、名古屋市中区の名古屋テレビ横にあり、客席数、四百五十席の中ホールです。昨年開催された岐阜大会に勝るとも劣らない大会になることが期待されています。また、京都大会は平成二十二年十月十三日(水)に実施されることが予定されています。

第三回法然上人への絵手紙募集

「法然上人と今、すべてのいのち」をテーマに、第三回の法然上人への絵手紙を募集しています。

八百年前の法然さんに手紙を出すという仮想のなかで、未来への想いを語っていただくもの。自分の望み、願い、悩み、主張……なんでも結構です。絵手紙にして送ってください。

はがき大に絵手紙を描き、封書で郵送してください。彩色、画材自由、絵に一言添えてください。

〒住所、氏名(振り仮名)、電話・FAX番号、年齢、性別を明記。

なお応募点数に制限はありません。

■賞 最優秀賞(一本) 硯

優秀賞(二本) 墨

佳作(十本) 筆

■締切 平成二十一年十二月三十一日

■発表 翌年二月 入選者に通知

■応募先 総本山永観堂禅林寺

「法然上人800回大遠忌」事務局

発行所 宗祖法然上人800回

大遠忌記念事業事務局

〒六〇六・八四四五 京都市左京区永観堂町四八

電話 〇七五・七六一・〇〇〇七

FAX 〇七五・七六一・四二四三

Eメール zeninji@ekando.or.jp

二〇〇九年七月一日発行